

第12号！ おやじ通信 二〇二一年一月

子どもたちの安全・安心のために行っているパトロール活動を通じて得られた情報を発信する学期ごとの通信誌です
 - 保護者の方にお読みいただき、子どもたちへお伝えいただきたい内容です -

子どもたちはカーブミラーを見ていますか？ 子どもたちにカーブミラーのことを教えていますか？
 カーブミラーは交通安全のために有効なものですが、その特徴を知らないとかえって危険なこともあります

◆カーブミラーとは

学区内及びその周辺の地区で信号機が設置されている交差点は、比較的交通量が多いところや事故が多発しているところに限られています。そのため信号機が設置されていない交差点でも見通しが悪いことなどから事故の危険性があるところは数多くあります。

車やバイクの運転手であっても歩行者であっても大人なら、必ず道路反射鏡(カーブミラー)に視線を向けて安全確認を行っていると思いますが、子どもたちはどの程度カーブミラーを見ているのでしょうか？

カーブミラーは、全交通事故の1/4が交差点や見通しの悪いカーブでの出会い頭により多くおきていることから、見通しの悪い交差点、交通量の多い交差点、飛び出しの多い交差点などに設置されています。

子どもたちの飛び出しを防止するために、今回はカーブミラーの見え方やその死角などについてお話し致します。

◆カーブミラーでのものの見え方

カーブミラーには、左右二つのミラーを設置している二面鏡型(写真左)と、一面鏡型(写真右)があります。向けられた側の

交差点右側方向の道路で車が近づいて来る時には、カーブミラーではその車は右上から左下の動きとして見えます。同じく左側方向の道路ではこの逆、左上から右下の動きとして見えます。しかしながら一部のカーブミラーについては、設置位置やミラーの角度の違いにより、真上から真下への動きや、逆の斜め方向の動きに見えるケースもあります。これらにはそれぞれ理屈がありますが、その説明は省かせていただきますので、その代わりに是非とも実際にご確認いただければと思います。

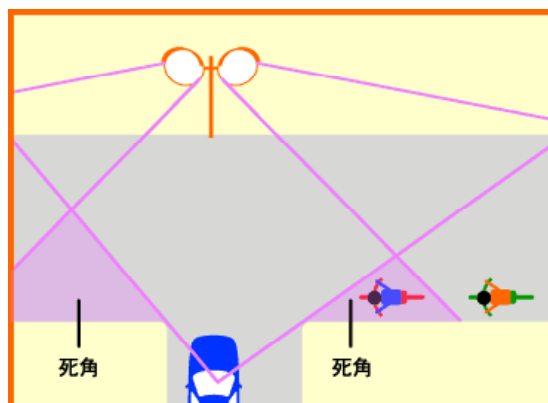


さまざまな大きさや速度の対象物を確認するためには、なる

べく近づくことと、しっかり見ることを行わなければならないことをご実感いただけたらと思います。

◆カーブミラーの死角と短所

カーブミラーに映る視野はミラーのサイズによっても異なりますが、カーブミラーに近づけばより広い範囲が見えることになる特性は共通しています。しかし、間近に接近している歩行者や自転車やバイクなど小さい対象車は映らなくなる場合があるという致命的な特性も合わせ持っています。設置されている過半数のカーブミラーには死角があると言われており、その死角は手前側の両側数メートル位の距離の間となります。特に建物や高い塀、垣根などで直接見通せない箇所での出会い頭の接触事故には特に注意する必要があります。また、車やバイク、自転車を利用している場合、一時停止の表示がある交差点では、ミラーだけに頼らず一端止まって左右を自分の目で確認する必要があります。カーブミラーのある交差点での接触事故は、死角の見落としによるものが多いとのこと。



手前の際に死角がある(道路反射鏡協会HPから引用)

夜間にはさらに気をつけることが増えます。無灯火の自転車や黒っぽい服装の歩行者は確認しにくくなるので特に注意して下さい。その他、秋から冬にかけての朝夕の低い陽光による逆光時にはカーブミラーは見えにくくなりますし、冬に多いケースですが、深夜に雨が降りやみ翌朝の急な冷え込みがこれに加わるとカーブミラーが結露して、全く見えなくなることがあります。(なお日差しが当たると自然に結露は解消されます)

◆子どもたちに何を伝えるべきか、何を実行すべきか

子どもたちにただカーブミラーを見て気をつけなさいと言うだけではこと足りないのではないのでしょうか。子どもたちは様々な経験が極めて少ないので、実際にカーブミラーの前で教える事が大切です。ちなみに、大きな車ほど速く接近してくるよう見え、バイクや自転車のような小さな対象物は同じ速度でも遅く感じます。何らかの車両が接近していることに気が付いたら、たとえ相手側が一時停止の義務がある交差点であっても、自身の自転車をすぐにでも止められる速度まで減速させ、また、危険が近づいているのだとの身構え心構えを持った方がいいでしょう。合わせて自転車同士の接触事故にも気を付けて下さい。お互い交通ルールを守って左側通行をしていれば出会い頭での交通事故は少なくなるものと確信しています。白い側線が右側だけにある道路であっても自転車は左側通行です。自転車は車両です。(なお自転車を押して行くのであれば右側通行も可です)

カーブミラーは凸面鏡で広範囲を見通すことが出来ますが、以上のような鏡という特性から子どもたちにとってはカーブミラーを見て状況判断するということは極めて難しいことなのです。学校での交通安全教育のみに委ねるのではなく、普段の日常生活から車やバイク、自転車が接近しているかの確認をし、カーブミラーを見て判断するという習慣が身に着くよう、ご家庭でのご指導をよろしくお願いします。

◆カーブミラーが曲がっている、木の枝葉で見えにくい

狭い道路が多い学区内や周辺地区では、トラックなどの大型車両がカーブミラーに接触してミラーの向きが変わったり、支柱が曲がったりしてその役目を果たしていないことがあります。特に最近学区内においては住宅建設などが急増しており、大型車両とカーブミラーの接触事故を目撃したこともあります。また、木の枝葉がミラーに被さっていて見えにくいケースも多々見受けられます。

これらは出来るだけ早く対処しないと交通事故の元凶ともなります。カーブミラーの支柱や電柱には管理番号が書かれていますので、書き留めるなどして、鵜沼市民センター(電話33-2001)までご一報下さい。

◆カーブミラーの設置について

カーブミラーは、市民からの要望を受けて市が設置基準に基づき設置しています。カーブミラーを設置して欲しい交差点などがございましたら、鵜沼市民センターまたは各自治会・町内会にご相談下さい。つい最近に自動車同士の接触事故が発生した学区内の交差点でも、KFPの働きかけにより近いうちにカーブミラーが設置される見込みとなっております。

◆さいごに

カーブミラーは死角の状況確認を補助するものに過ぎません。また、天候の状態によってはミラーが曇ることなどにより安全確認に役立たないことや、ミラーの構造や設置角度、設置環境によっては実態とは大きくかけ離れた見え方をすることがあります。

カーブミラーが設置されている交差点やカーブでは、道路標識で指示されていなくても一時停止や徐行を心がけ、最後は必ず自分の目で交通の状況を確認することが大切です。

まず大人が良いお手本になり、交通安全の指導を行えば、子どもたちは見て、知って、学びます。

KFP鵜沼隊の活動も発足から5年目となりました。犯罪から子ども達を守るとい活動からスタートし、交通安全や学校行事への協力、家族親善イベントの開催、児童館やふれあいトライアングルなどの連携事業も行っています。また鵜沼小、鵜沼中、鵜沼小の三校KFPで不審者情報の共有、情報配信も行っています。年に一回の活動でもかまいません。 隊員随時募集中です!! (T.T)

おやし通信で交通安全関連の特集号としたのは、第3~5号、第10号、第11号に続いて6回目となります。KFPの発足当時は、子どもたちの防犯活動を主目的にしていたが、子どもたちの安全・安心をキーワードとしている以上、交通安全、非行防止、いじめ問題その他の幅広い活動もできる範囲で行っていきたくと思っています。そのためにはまず人と人とのつながり、コミュニケーションとネットワークが大事です。改めてKFPにご興味をもちましたら、是非ご連絡下さい。学校を通じての連絡も可能です。(K.K)